

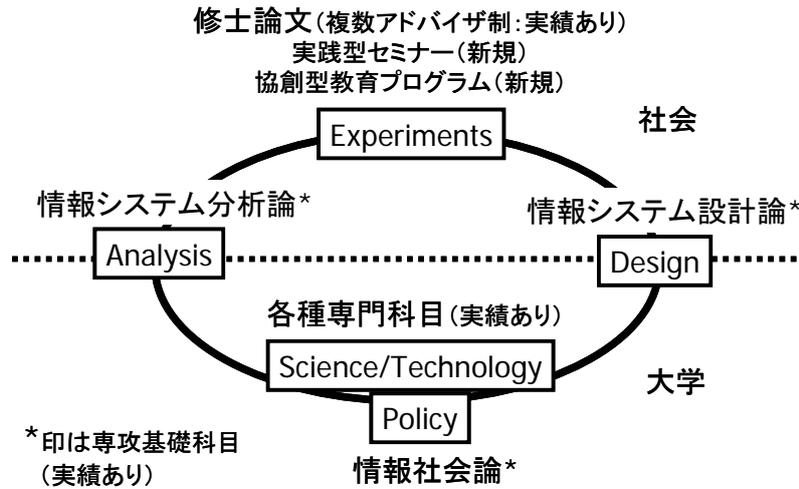
平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	京都大学	整理番号	b023
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	社会との協創による情報システムデザイン (フィールド重視の情報技術(IT)大学院教育プログラムを目指して)		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 情報学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (情報システム、社会情報システム)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 (<input type="checkbox"/> 書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名)	研究科長(取組代表者)の氏名 船越 満明	
	情報学研究科・社会情報学専攻[博士前期課程] 情報学研究科・社会情報学専攻[博士後期課程]		
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>京都大学はその理念に、「開かれた大学として、日本および地域の社会との連携を強めるとともに、自由と調和に基づく知を社会に伝える」こと、また、「世界に開かれた大学として、国際交流を深め、地球社会の調和ある共存に貢献すること」を謳っている。情報学研究科社会情報学専攻の本提案は、まさしく京都大学の理念に沿って、情報システムデザインの教育研究の発展を図るものである。</p> <p>京都大学としては、本計画の達成のために、積極的な支援を行いたい。即ち、国際社会との連携活動に関しては、1)従来、海外大学と学部間、研究科間で取り決められていた協定を、その更新の際に大学間協定に格上げし、連携活動を円滑化すべく基盤整備を行う、また、2)従来、学部、研究科など、各部局で運営してきた海外拠点の運営について、部局を超えた柔軟な利用を可能とする。さらに、地域社会との連携活動に関しては、3)京都の町屋の景観保存と利活用を図る「町屋キャンパス構想」を積極的に進め、地域社会との協創による情報システムデザインの教育研究を支援する。</p>			

機 関 名	京都大学	整理番号	b023
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>社会情報学専攻は、『<u>社会との協創による情報システムのデザイン</u>』が行える人材の育成を目的としている。専攻は、ネットワーク、データベース、インタフェースなどの情報技術(IT)を担当する分野と、情報システム(医療、教育、経営、環境、防災など)を担当する分野から構成されている。多様な情報システムの基盤となる情報技術(IT)を鍛えていると共に、境界領域の研究を支える複眼的な研究指導体制を構築している。1) 専攻基礎科目: 博士前期課程1年次に、情報システム設計論(同演習)、情報システム分析論(同演習)、情報社会論という必修の専攻基礎科目を課している。2) 複数アドバイザー制: 修士、博士研究では、指導教員の他に2名のアドバイザーを置く複数アドバイザー制を導入し、半期ごとのレビューを行っている。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>5-(2)に示した取り組みを実質化するためには、<u>博士前期課程1年次に形成された知識基盤を、修士・博士研究に定着させる</u>取り組みが必要である。そのために以下を実施する。1) 実践型セミナーの導入: 修士・博士研究を社会の中(フィールド)で行うために、「<u>フィールド情報学セミナー</u>」を開講する。NPO、企業、行政からの講師と共同で、人対人型情報システム(教育、医療、経営など)と人対自然型情報システム(環境、防災など)について、現実社会でのデザイン能力を育てる。また、研究開発した情報システムを国際標準にまで高める力を養う「<u>戦略的コミュニケーションセミナー</u>」を、英語教育外部機関と共同で開講する。2) 複数アドバイザー制の社会展開・国際展開: <u>フィールドアドバイザー</u>(学位不問)と<u>海外アドバイザー</u>を設け、社会のニーズを研究に反映させると共に、広く海外の専門家の指導を得る。</p> <p>一方、意欲的・独創的な教育プログラムでは、<u>将来の社会情報学オープンスクール</u>を目指し、『<u>社会との相互学習に基づく情報システムのデザイン</u>』が行える人材の育成に着手する。即ち、社会から情報を収集し成果を還元するという旧来のプロセスではなく、社会との相互学習の中から解を協創していく人材を育成する。1) 協創型教育プログラム: <u>フィールドでの滞在型研修</u>を支援すると共に、フィールド側のパートナーが情報システムを理解し円滑に相互学習が進むよう、<u>専攻基礎科目</u>を電子的に公開する。また、国際社会においても相互学習を重視し、<u>海外研究機関での滞在型研修</u>(海外拠点の活用)を支援すると共に、<u>学生主催の国際シンポジウム・ワークショップ</u>を支援する。2) 協創型リーダーシップ養成ファンド: 上記の協創型提案を学生から公募し経費を支給する。</p>			

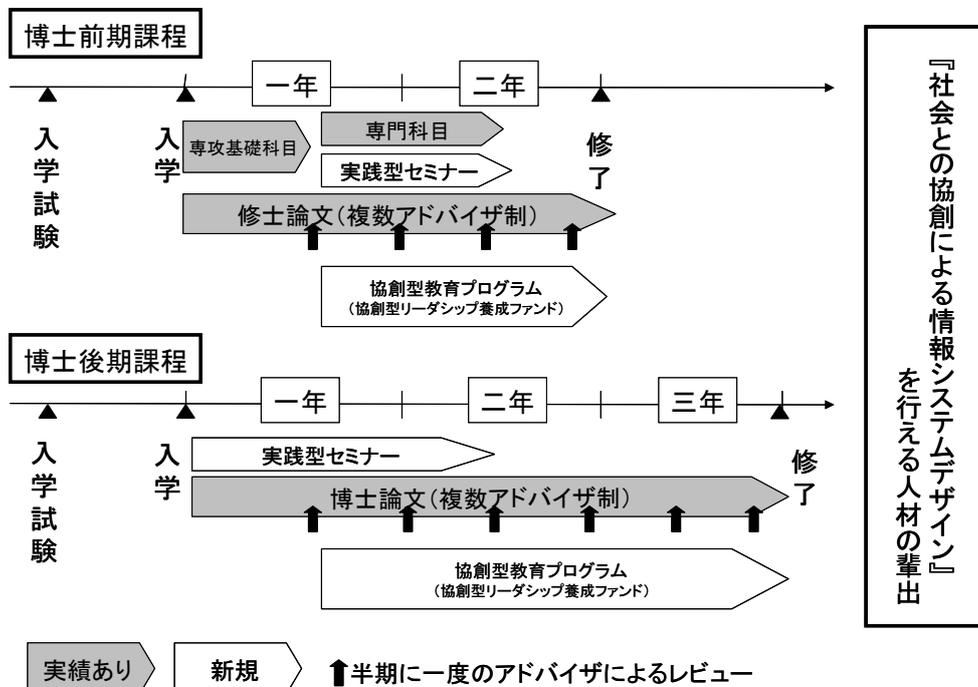
6. 履修プロセスの概念図



社会と大学の協創を目指し、専攻基礎科目、専門科目、修士論文などを知識と実践の循環が生まれるように配している。

各種専門科目(実績あり)は情報技術(ネットワーク、データベースなど)、対人型情報システム(教育、医療、経営など)、対自然型情報システム(環境、防災など)を含む。
 実践型セミナー(新規)は、フィールド情報学セミナーと戦略的コミュニケーションセミナーを含む。
 協創型教育プログラム(新規)は、フィールドでの教育と国際的な場での教育を含む。

図1: 博士前期課程の科目構成



修士論文・博士論文の複数アドバイザー制(実績あり)では、半期に一度のアドバイザー報告を行う。
 博士論文では、概ね2年次に中間試問会(thesis proposal)を実施する。

図2: 履修プロセス

機 関 名	京都大学	整理番号	b023
<p data-bbox="165 203 587 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 297 1430 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 492 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 539 1430 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 633 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 683 1430 857">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 922 633 952">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 972 1430 1146" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 972 1430 1046">・ 「社会情報学」という領域の確立に向けて、国際的視野の下でのフィールド重視の教育の展開を図る試みは評価できる。 <li data-bbox="172 1066 1430 1146">・ 社会情報学専攻が本来担うべき役割について、今までに実現できていないことを補足するのみでなく、「社会情報学」の新たな知見を得るようなプログラム実施のための検討が必要である。 			